

農業再生・強化策は

高橋 敬 議員

質問 「人と農地の問題」についてアンケート調査が実施された。調査結果は。

農政部長 高齢化や耕作放棄地の増が懸念され、家族経営の維持と新規就農者に期待が寄せられています。

質問 「人・農地プラン」では、耕作面積を10〜20ha規模の経営体を求めている。

本市の現状と10〜20haの土地集約は可能か。

農政部長 10ha以上の経営体は、7経営体です。農地の集約は一方所に集約する可能性について研究していきたいと思います。

青年就農対策は

質問 農業が持続可能な力強い産業として成長し続け

るには「若い世代」の呼び込みが不可欠。本市の取り組みは消極的と思うが。

農政部長 将来の地域農業を牽引する新規就農者の養成について、この取り組みを積極的に推進します。

質問 国では、農地を手放す離農者に協力を新設し、大規模農家の育成策を打ち出した。農地の出し手は農業から撤退となるが、過半数を占める中小農家対策は。

農政部長 条件不利地域の担い手対策とあわせ、中小

規模農家に配慮しながら、国、県の制度を活用した政策を検討していきます。

質問 小規模農家や兼業農家を含めた目指すべき農業の具体的な姿が見えない。「農業振興ビジョン」の作成と農業再生・強化策は。

農政部長 小規模農家に配慮した施策や農産物の地域ブランド化を図ることなど、総合的な見地から地域農業振興計画策定に向けた研究をしていきます。

合併後の渋川市人口推移は

都丸 政行 議員

質問 合併後、市の人口減数と自然動態、社会動態の人口減数は。

企画部長 人口は約3900人、自然動態と社会動態は合計で、毎年約400人〜600人減少しています。

質問 各人口減に対する要因は。

企画部長 自然動態は、少

子化による減少、社会動態は、進学や就職による減少が主な要因と想定されます。

質問 社会動態における人口減の要素は、どのような人がどのような時期に転出していくのか。

企画部長 高校を卒業し、就職または進学する際と大学を卒業し就職する際に減

少するものと推測されます。

質問 合併後の渋川市の人口は、県内12市の中で人口減少の割合が3番目に多いが対策と結果は。

市長 子どもを生み育てる環境整備、生活環境や利便性の確保、産業振興等に総合的に取り組み、定住人口の確保を目指します。

有馬企業団地の現状と見通しは

質問 有馬企業団地の完売は非常に厳しいと思われるが、価格を39%下げた後の

問い合わせ数、企業の反応、進出に至らなかった理由は。

商工観光部長 1区画を販売。現在1社が検討中。高速からの距離、価格が高い、面積が狭い等の意見がある。

質問 それぞれの市町村では独自の売り込み、営業方法が見られるが、渋川市独自のアピール方法は。

商工観光部長 他自治体と比較し、そんなない優遇措置。自然災害が少なく、首都圏に近い等地理的条件が良い。迅速な対応をする。



有馬企業団地



稲刈り風景

一般質問



土地改良予定地（上狩野地区）

渋川市の農業振興について

石関 桂一 議員

コンニャクの栽培振興について

質問 本市は県内有数のコンニャクの生産地であるが、今後の本市の栽培振興の考えは。

農政部長 経営コストの削減を目的に、優良新品種の導入、環境や安全への配慮や消費拡大を進めます。

質問 農業の安全使用等についての本市の考え方は。

農政部長 周辺環境に配慮した農業使用と、生産者の意識の向上を図り安全性に配慮した農業を推進します。

質問 県の育成品種となっている、「みやままさり」の現在の栽培面積、普及率については、どのくらいか。

農政部長 栽培面積は、5955㌥で普及率は、約11.1%になっています。

質問 「みやままさり」の種子の販売設定は、どのように設定しているのか。

農政部長 販売単価は、相場の変動を加味し、1㍩当たり300円から400円の間と聞いています。

質問 渋川市の農業振興、また観光農業等について、市長はどのように考えているか。

市長 特産品を守り、農業

で自立できること、温泉を核に異業種間交流を進め、観光ルートを整備したい。
有害鳥獣対策について

質問 年々、増加傾向にある有害鳥獣について、本市の被害防止対策、被害面積及び被害額は。

農政部長 捕獲隊8隊による捕獲、耕作放棄地の解消の設置、耕作放棄地の解消などを行っています。被害面積は3488㌥で、被害額は962万7000円です。

赤城西麓土地改良事業の推進を

狩野 保明 議員

質問 赤城町内の整備予定800㍎の実施状況は。

農政部長 完了地区が3地区、実施中が2地区、及び推進中の2地区を合わせると、418㍎になり52.3%になります。

質問 平成23年度採択の北上野地区の排水整備計画は。

農政部長 流末河川の調査

結果により、排水が集中しないよう分散し既存河川に排水する計画としています。

質問 平成24年度採択の上狩野地区の排水整備計画と耕作道路の整備計画は。

農政部長 新たな排水路を設け集落内への流域を分割し、排水量を減少します。道路は現道改修を行います。

質問 赤城西麓土地改良内の道路の基本的な幅員は。

農政部長 設計基準に基づき全幅7㍎から3㍎の道路を計画地区周辺道路の状況を勘案して計画しています。

質問 現在、採択に向け事業推進を行っている地区は。

農政部長 中原地区（70㍎）と笠張・寺後原地区（134㍎）で実行委員会が組織され推進しています。

質問 整備完了地区で、未舗装道路の舗装予定は。

農政部長 路面の状態、生活道路としての利用状況を見て、実施の判断をしたいと考えています。

質問 整備地区のシカ、イノシシ等の鳥獣被害対策は。

農政部長 羽場坂地区では、補助事業により材料を購入し、外周に受益者が侵入防止フェンスを設置しました。

質問 整備地区内の農業用水の利用状況と営農指導は。

農政部長 防除用水、作物への散水、育苗に利用され、指導機関と共に水利用作物の普及に取り組んでいます。



電牧柵